

著者の許諾なく、無断で引用することは禁止します。
Do not quote without author's permission.

聖地としての森林 ―ヒトと森の関係を、聖地からみってみる―

2014年11月15日

嶋田奈穂子

1. 聖地への視点 ―建築物から土地・空間へ―

- ・「神社とは何か？」という疑問。
- ・「神社」とそこにある建築物は、国家的政策の賜物。
それらは、聖地であること条件ではない。
- ・「聖地とは何か？」という新しい疑問。

2. 鎮守のX

- ・神社の画一的なプランや建築物から、土地や空間に視点を移すと、すごく多様。
- ・もう、「神社調査」はやめる。
- ・じゃあなに？鎮守の森？だけど、森だけじゃない。だから「鎮守のX」。
- ・Xは、地域の生態と歴史的イベントによって決まる、という仮説。
(Cf. 古墳、岬、滝、水源、津波の到達点…)
- ・「神社」調査では、見えてこなかったいくつもの聖地
(ガロー、モイドン、ニソの柱、堂、プー・ター…)

3. 鎮守の森の変容 ―ラオスの事例―

- ・北部（山間部）の少数民族と、南部（平地・メコンの中洲）のラオ
- ・ラオのプー・ター：田の頭
伐り開かれていく森
派手になっていく建物
- ・少数民族の鎮守の森：政策による消失
成長を妨げてはならない森

4. 森の力

- ・それでも残されている鎮守の森
登録もされず、復祀もされず、そこにある聖地